

(第五回公演概要)

タイトル「リーディング・ア・ライヴ (仮)」

朗読×演劇×映像の舞台表現の形。

それは朗読パンダが目指す新しいエンターテイメント。

他では絶対観られない、ジャンル不問のオムニバス・リーディングライブ！

本番日時：2017年10月5日(木)～8日(日) 全8公演

仕込み・リハ：2017年10月4日(水)

場所：池袋 BIG TREE THEATER

<http://www.theater-green.com/>

本番：5日(木) チームW 開演 19:30

6日(金) チームB 開演 14:30

チームW 開演 19:30

7日(土) チームB 開演 12:30

チームW 開演 16:00

チームB 開演 19:30

8日(日) チームW 開演 13:00

チームB 開演 17:00

(企画意図)

① なぜ、いま朗読劇なのか

昨今、いたるところで朗読劇が開催されるようになりました。

朗読劇の大きな特徴には、大がかりな舞台装置を必要としないので、準備にかかる負担が少ないというのが挙げられると思います。日頃から鍛練を積み、準備のできているプロの役者と、クオリティの高い脚本さえあれば、演出等で大きな時間を割く必要はありません。今後も、様々な形の朗読劇が増えてくると予想されます。元々、舞台は一つを作り上げるのに、大きなエネルギーと時間を費やしてしまうものです。それは悪いことではありません。やりがいもあるし、参加者は

学習できることも多いでしょう。ですが、そのために制作も役者も、その他の部分で大きな犠牲を強いられるケースが少なくありません。

② 短い準備で、舞台に立つことの意味

プロの現場に出れば、いかに短い時間で準備し、自分の力を発揮するか、その瞬発力が必要になります。

「俺は役作りに一か月かかるんだ！」

そんなことを堂々と言えるのは、きわめて一部の役者だけでしょう。

オーディション等でも、その場で与えられた脚本を、短い時間で理解して表現する、そしてアピールする。そういう能力が必要になってきます。

僕たちがやろうとしている朗読エンターテインメントは、参加してくれた演者がこうした能力を少しでも身に付けてくれることを少なからず期待しています。

稽古のためにバイトの数を減らして生活苦になったり、大きなオーディション等のチャンスを見逃ごしたりすることがないように、稽古の日数は原則週2～3日以内に留めています。また、参加作品ごとに稽古の日程を変えるため、実質週1.5日程度の稽古時間で、本番に臨むことになります。

③ 脚本のクオリティ、オリジナリティに関して

4本の小作品に関しては、ジャンルの違う内容を用意します。

コメディ・サスペンス・ヒューマン……など作品によって、演者に求められるスキルも変わりますが、お客様は色々な作品に触れることで、バラエティに富んだ内容を楽しめるものになっています。舞台に馴染みのない人でも受け入れやすい受け皿をたくさん作ることで、朗読パンダは幅広い客層をターゲットにしています。

作家はドラマ脚本家、漫画原作者など、商業作品に関わっているプロが担当し、オリジナル脚本を用意します。これまでは外部脚本家に依頼をしてきましたが、今回からは当団体の座付き作家、山本陽将、大塩竜也が4本全ての脚本・演出を担当します。

巷の朗読劇では、有名文学作品、映画、アニメなどの名作を取り上げることが多いのですが、そうした意味でも、他とは差別化された、オリジナリティのある興行が可能になります。

④ 舞台に出ることで、次の仕事へつなげていく

芸を自分の仕事として、現場で必要とされて生き残っていくためには、自分が関わる一つ一つの仕事を（それが人から見て、ささいに思えるようなことでも）懸命に取り組み、次の仕事につなげていく努力が必要だと考えます。

朗読パンダでは、運営サイドもキャストも、定期的な舞台公演を続けていく中で、朗読エンターテイメントという新ジャンルを築き、そこに関わる人たちが、「芸で飯が食える」ことを、最大の目標としています。

「ただ舞台に立ちたい」ではなく、「舞台を通して、オーディションの時に動じない度胸を身に着きたい！」「舞台でいい演技を見せて、別の仕事のオファーを取りたい！」という具合に、野心を持った方の参加を心からお待ちしております。

朗読パンダ主宰 山本陽将

（スタッフ）

演出：山本陽将、大塩竜也

脚本：山本陽将、大塩竜也

演出助手：樋口将大 高橋佑治

舞台監督：今泉馨（P.P.P.）

音響：香田 泉（零'sRecord）

照明：太田明希

映像制作：斎藤佑基、稲葉孝文

映像コーディネーター：高藤大空

スタイリスト：MAYAKA

フライヤー写真、デザイン：早川潤

メイク協力：未定

宣伝美術：未定

総合演出：大塩竜也

プロデュース：山本陽将

制作：未定

制作協力：作家チームレッサーパンダ